

明和病院薬剤部新人薬剤師研修プログラム

■新人薬剤師研修プログラムの目的

「明和病院薬剤部の新人薬剤師として、必要最低限の知識・技能・態度を身につける」

■教育方針

明和病院薬剤部では病院理念「親切で信頼される病院を目指します。」に基づき、患者さんに安全で適切な医療を提供し、病院薬剤師として活躍していくための知識や技能、態度の養成を目標とする。新人プログラムでは基礎力、および薬の専門職としての自覚の育成を目指す

< 研修の概要 >

■研修期間

・1年

■一般目標

- ・院内職員、患者や家族と良好な関係を保つために、職業人、薬剤師として基本的姿勢を修得する
- ・薬剤業務に関わるルールをその理論的根拠と共に理解し、正確で迅速な業務を実践する
- ・患者との関わりや他部署との連携を意識しながら、主に薬剤部内における業務を修得する
- ・薬剤業務上の問題を発見し、解決していく過程を経験する

■到達目標

- ・職業人、薬剤師としての自覚を持ち、倫理に基づいた行動、病院及び薬剤部の理念を理解した行動ができる
- ・院内採用薬の基本的な医薬品情報を説明できる

- ・調剤内規など薬剤業務上のルールを、その理論的根拠と共に説明できる
- ・種々のリスクを考えながら、薬剤業務上のルールに従い正確、迅速に調剤(内用・外用・注射)できる
- ・個々の薬剤業務と院内他部署との関わりを概説できる
- ・日直、宿直体制の薬剤業務ができる

■主な指導者

- ・薬剤部長 薬剤部主任(主任補) 各専門・認定薬剤師 必要に応じて担当薬剤部職員

■評価法

- ・下記の評価基準に従い、随時、自己評価を行い、主任補以上の薬剤師が再評価、フィードバックを行う。薬剤部長が認証する
B判定以上を修得済みとする
「達成度」はA～C3段階で判定する
A:おおむね80%以上達成できている B:60%から80%程度達成できている C:60%未満の達成度である

■実施事項

概論・オリエンテーション 調剤業務 製剤業務 無菌注射調製 薬物血中濃度モニタリング 外来化学療法 薬品管理業務 医薬品情報業務
病棟業務とチーム医療 関係法規・制度 医薬安全研修 生涯教育・専門薬剤師・研究活動など 宿直・休日業務 等

■教育スケジュール

- ～4カ月 午前・午後毎、1週毎に業務ローテーション(別紙参照)を行い、調剤・注射払出等基本となる業務の手順を学ぶ
- 5カ月後～ 通常業務ローテーションに入り、基本業務以外の業務(抗がん剤・注射剤ミキシング、院内製剤等)を学ぶ
- 10カ月後～ 日直・当直業務を開始 病棟業務・院内チーム活動等、他部署と関わる業務に携わる

■評価項目

到達目標「職業人、薬剤師としての自覚を持ち、倫理に基づいた行動、病院及び薬剤部の理念を理解した行動ができる」

- 挨拶ができる
- 報告・連絡・相談ができる
- 良好にコミュニケーションがとれる
- 自己のスケジュール管理ができる
- 周囲に合わせたスケジュール調整ができる
- 勤怠報告ができる
- 体調管理に注意を払い、体調不良時には申し出ることができる
- 先輩、上司からの指導を真摯に受け止めることができる
- 医療の目的を説明できる
- 生命の尊厳についての理解を深めている
- 医療における倫理の重要性を認識している
- ヘルシンキ宣言について概説できる
- 「医療の担い手」の規定を理解している
- 患者の基本的権利を理解している
- 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守できる
- 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守できる
- 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動できる
- 患者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚している
- 医薬品の適正使用における薬剤師の役割を説明できる
- 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚している
- 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる

- チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる
- チームにおける自分の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求められる
- チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員として役割を積極的に果たすように努めることができる
- 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識している

到達目標「院内採用薬の基本的な医薬品情報を説明できる」

「調剤内規など薬剤業務上のルールを、その理論的根拠と共に説明できる」

「種々のリスクを考えながら、薬剤業務上のルールに従い正確、迅速に調剤(内用・外用・注射)できる」

「個々の薬剤業務と院内他部署との関わりを概説できる」

「日直、宿直体制の薬剤業務ができる」

調剤業務

- 調剤に関わる事項の意義や取り扱いの意義を法的根拠に基づき説明できる
- 院内処方箋と院外処方箋の差異について理解している
- 院内処方箋の種類(区分)について説明できる
- 院外処方箋の取り扱いについて理解している
- 処方箋の記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切か確認できる
- 電子カルテのオーダーリングシステムの概要について説明できる
- 電子カルテのオーダーリングシステムの操作(処方修正・中止等)ができる
- 調剤システムのオーダーリングシステムの操作(再発行・処方修正)ができる
- 処方内容に疑義がある場合には、必ず疑義照会を行い適切に対応できる
- 調剤室の取り決め事項を理解している
- 錠剤・カプセル剤・外用薬の調剤に関する内規を理解し、その通りに調剤できる

- 散剤の調剤に関する内規を理解し、その通りに調剤できる
- 水剤の調剤に関する内規を理解し、その通りに調剤できる
- 麻薬および向精神薬について、法令を正確に把握し、法令を遵守した取り扱いが必要なことを理解している
- 麻薬の保管・管理について、「麻薬及び向精神薬・毒薬・覚せい剤原料取扱マニュアル」の麻薬の項目を熟読し、その内容について正確に理解している
- 麻薬・毒薬・向精神薬に関する内規を理解し、その通りに調剤・管理できる

注射業務

- 注射薬の定義と適応を説明できる
- 注射薬の種類・剤形・投与方法・組成について説明できる
- 入院注射箋の種類(区分)について説明できる
- 入院注射箋の各区分について、締切・搬送時間、搬送場所などを説明できる
- 注射薬払い出しの運用について、正確に説明できる
- 注射箋内容について、投与量、投与時間、投与経路、配合変化などを確認し、疑義がある場合には、必ず疑義照会を行い適切に対応できる
- 入院注射箋に基づいて、安全・正確に調剤できる
- 冷所薬・毒薬・麻薬・向精神薬の運用について、正確に理解している
- 入院注射オーダーの修正・削除について、適切に対応できる
- 特定生物由来製品の運用について、正確に理解し管理できる

監査業務

- 監査業務の重要性、必要性について正確に理解している
- 内服・外用薬処方箋の処方内容について、監査時に確認が必要な項目を列挙できる
- 調剤後の内服・外用薬について、監査時に確認が必要な項目を列挙できる

- 注射薬処方箋の処方内容について、監査時に確認が必要な項目を列挙できる
- 取りそろえ後の注射薬について、監査時に確認が必要な項目を列挙できる
- 処方入力時に発生しやすいエラーについて、代表例を列挙できる
- 内服・外用薬調剤時に発生しやすいエラーについて、代表例を列挙できる
- 注射オーダー入力時に発生しやすいエラーについて、代表例を列挙できる
- 監査時に生じた疑義について、必ず疑義照会を行い適切に対応できる
- 監査時に発見した過誤について、適切に修正し対応できる

薬品管理業務

- 毒薬の保管・管理について、「麻薬及び向精神薬・毒薬・覚せい剤原料取扱マニュアル」の毒薬の項目を熟読し、適切に保管・管理を行うことができる
- 向精神薬の保管・管理について、「麻薬及び向精神薬・毒薬・覚せい剤原料取扱マニュアル」の向精神薬の項目を熟読し、適切に保管・管理を行うことができる
- 冷所薬について、適切な保管・管理を行うことができる
- ハイリスク薬剤を列挙できる
- ハイリスク薬剤について、適切に保管・管理・注意喚起を行うことができる
- 手術室における麻薬・毒薬・向精神薬の保管・管理について、運用を正確に理解している
- 自動発注、要時購入薬品の発注について、運用を理解している
- 在庫管理システム、適正在庫量、適正発注量などを理解し、発注業務を正しく実施できる
- 欠品時の対応、使用停滞品および有効期限の近い薬品の取扱、破損・期限切れ薬品の取扱について理解し、適切に対応できる
- 定数配置薬の配置部署を列挙できる
- 定数配置薬の運用を理解し、適切に対応できる

無菌製剤業務

- 無菌調製の特徴と必要性を理解している
 - TPNの混注対象となるオーダーの条件について正確に理解している
 - 混注業務手順に従い、準備およびTPNの混注を行うことができる
 - 混注業務手順に従い、TPNの混注補助を行うことができる
 - TPN混注終了後の、片付け・掃除を行うことができる
 - TPN混注終了後の監査を正確に行うことができる
- ※TPN: Total Parenteral Nutrition(中心静脈栄養)

抗がん剤調製業務

- 抗がん剤調製に必要な構造設備について説明できる
- 抗がん剤調製時の職業性曝露対策について説明できる
- ハザードドラッグ(Hazardous Drug: HD)について説明できる
- 調製時に注意が必要な薬剤について、具体例を挙げて説明できる
- 入院化学療法および外来化学療法の事前準備を行うことができる
- レジメンのシステムについて理解している
- 各レジメンオーダーについて、投与量・投与間隔の監査ができる
- 抗がん剤調製マニュアルに基づき、業務を行うことができる
- 実施当日の事前準備を行うことができる
- 入室準備および調製室の準備を行うことができる
- 抗がん剤調製のための必要な器具について正確に理解し、正しく調製を行うことができる
- 抗がん剤調製後の監査を行うことができる
- 抗がん剤調製後の片付け・掃除・廃棄を適切に行うことができる

抗がん剤の汚染事故への対処法について説明できる

院内製剤調製業務

院内製剤が必要な理由を説明できる

院内製剤に関連する法的根拠や責任の所在などを説明できる

院内製剤のクラス分類について説明できる

院内製剤のクラス分類ごとに必要な院内手続きについて説明できる

現在院内で承認されている院内製剤を列挙し、そのクラス分類を説明できる

院内製剤を手順書に従い、正しく調製できる

調製した院内製剤について、正しく記録できる

日直・当直業務

日直・当直業務で行わなければならない業務を説明できる

電子カルテシステム、部門システム等の不具合時の対処法を説明できる

緊急連絡網の流れを説明できる

《参考》

明和病院クリニカルリーダー

～1年	2年～5年	6年～9年	10年～
<ul style="list-style-type: none">・調剤/注射払出等 業務の手順を理解する・医薬品の適正使用を理解する・日直、当直等の当番業務ができる・上司に報告ができる・薬剤部の業務を理解する・医薬品の流れを理解する	<ul style="list-style-type: none">・病棟・外来服薬指導業務、チーム医療などの業務を習得する・多職種との連携ができる・ジェネラリストとしての認定取得・病棟業務を行う機器・備品の管理ができる	<ul style="list-style-type: none">・リーダーとして様々な業務を管理する・業務改善に取り組み、提案する・実習の学生の指導を行う	<ul style="list-style-type: none">・責任者として薬剤部全体の業務を見越した管理ができる・薬剤部と他部署の交渉・調整ができる・目標に向けてリーダーシップを発揮・後輩の育成